

アカマツ

7 個人宅 砧 8-15

傷や枯れ枝もなく樹形、幹肌ともに美しいアカマツです。昔この一帯は松林だったそうです。

名木百選に選定されたアカマツの中で高さ1番(20.5m)と2番(16.3m)がこのアカマツです。



タブノキ

76 世田谷代官屋敷 世田谷 1-29



このタブノキは幹周り 3mを超え、代官屋敷の茅葺きの長屋門とともに歴史を感じさせます。

タブノキのあるこの場所は江戸時代中期から廃藩置県まで、代官を世襲した大場家の居宅を含む代官屋敷がありました。この跡地は国の重要文化財と東京都の史跡に指定されています。



【区の樹 ケヤキ】

昭和 43 (1968) 年 6 月に東京 100 年を記念して、区の象徴とするにふさわしい、区民に親しまれる鳥、花、樹の公募が行われました。応募内容について各分野の専門家の意見を基に選考した結果、鳥は「オナガ」、花は「サギソウ」、樹は「ケヤキ」にそれぞれ決定し、同年 9 月に制定されました。

ケヤキは昔、防風のために屋敷林などに植えられました。現在は屋敷林、街路、公園、神社、仏閣など区内各所で見られます。区内では身近な木で、名木の中で最も選定数が多く、ケヤキを含む素敵な風景も数多くあります。

枝が扇やほうきのように末広がりになる樹形がよく見られ、4 ~ 5 月頃新芽と同時に淡黄色の小さな花をつけます。秋には葉が赤色、オレンジ色、黄色に色づき、さまざまな色が混ざりますが、美しく色づく時期は短く、やがて葉は褐色になります。冬になって葉を落とした後も扇形のきれいな枝ぶりが見られ、美しいシルエットをつくりだします。

ケヤキ (群)

指天2

慶元寺 喜多見 4-17



大きくて樹形のきれいなケヤキが連なっています。いちばん高い木は、高さ 31m あり、名木のケヤキの中で 3 番目の高さです。三重塔とともに空にそびえる姿が壮観です。この木は、世田谷区指定天然記念物に指定されています。



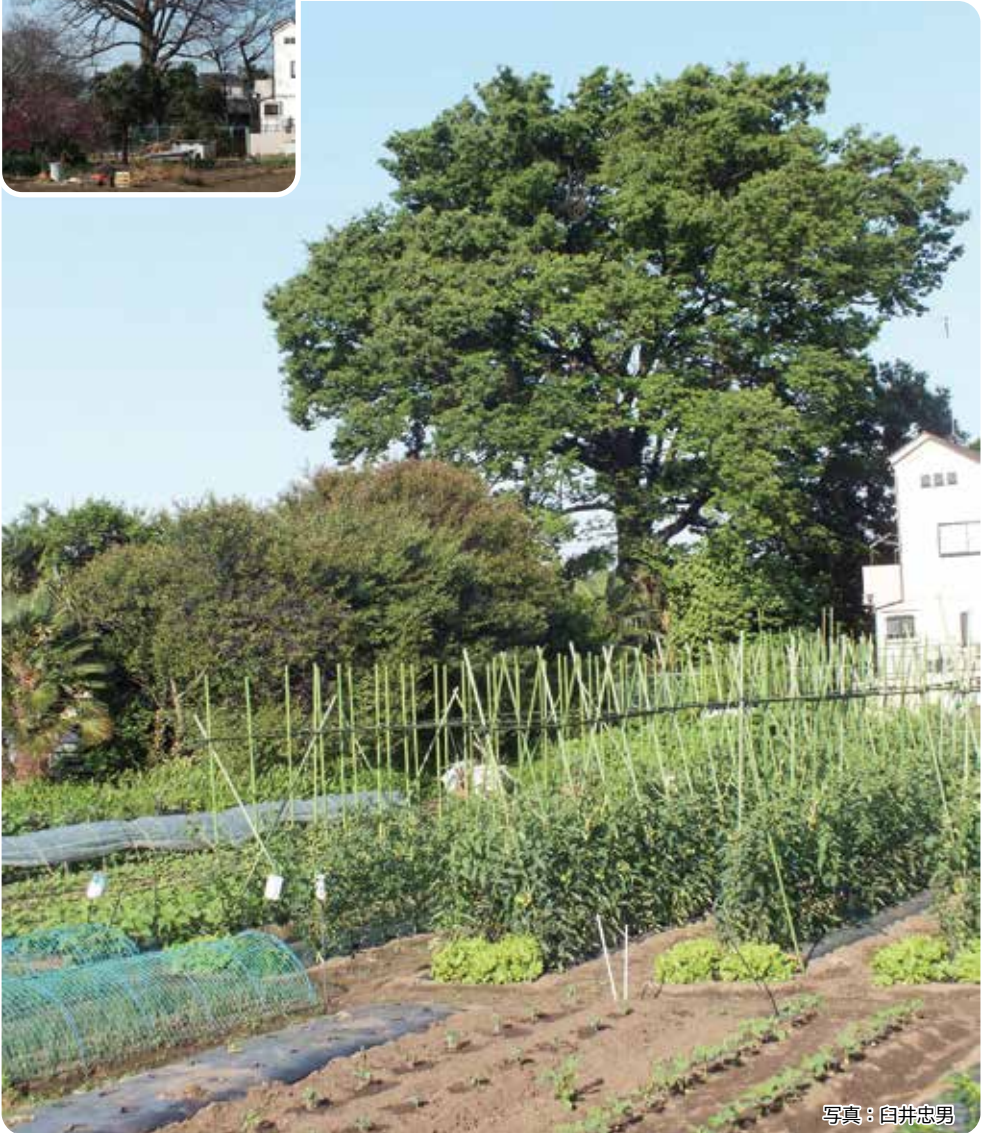
ケヤキ

51

個人宅 新町 1-16



四方に枝を伸ばした美しい樹形のケヤキです。名木のケヤキの中で最も枝張りの幅が大きく、24mあります。ケヤキと畑が一体となった風景は農村だった頃の世田谷の面影を今に残します。枝ぶりがよく、葉の落ちた後も味わいがあります。



写真：自井忠男



ケヤキ

48

民間集合住宅 松原 2-8

住宅地の中にそびえる大きなケヤキで、高さ 25mを超え遠くからも見えます。樹形、健康状態ともによい木です。幹周りも 4m超えで名木のケヤキの中で2番目の大きさです。近隣の皆さんで落ち葉掃きをするなど、大切にされているケヤキです。



ケヤキ

52

個人宅 喜多見 3-8

樹勢よく四方に枝を広げ、こんもりとした美しい樹形のケヤキです。喜多見小学校の北側の道から見ることできます。このお宅には、見ごたえのある大きなアカマツ、クロマツもあります。



名木物語⑬ 緑丘中学校の2本ケヤキ

ケヤキ

番 5

区立緑丘中学校 桜上水 3-19



この木の辺りには76ページのクロマツの話で登場した鈴木家の屋敷があり、現在の早苗保育園の周りが前庭で、緑丘中学校の校庭部分に母屋があったそうです。兄弟松が植えられた頃には、既に母屋の後ろにケヤキがあり、樹齢は400年以上と考えられています。

昭和20（1945）年5月の米軍空襲で鈴木邸の主な建物は焼失しましたが、ケヤキは生き残りました。

現在、2本ケヤキの根元はつながっていますが、幹が今より離れている写真が文献に残っているので、生長途中につながったのでしょうか。枝を四方に伸ばし、2本で丸い美しい樹形を作り出しています。



根元でつながった2本の幹

ケヤキ

47

個人宅 代沢 2-9

ほうき状に力強く枝を広げた樹形で、樹勢のよい木です。植木屋さんできれいに育てられた苗木を植えたものだそうです。植えられたのは100年以上前で樹齢は130年くらいではないか、とのこと。



メタセコイア

93

区立経堂大橋公園 経堂 1-4

クリスマスツリーのような三角形の樹形が美しい木です。周囲に大きな木が無いので、道からよく見えます。

針葉樹ですが、葉は柔らかく繊細で、秋には紅葉が楽しめます。



ヒマラヤスギ

84

成城三丁目こもれびの庭 市民緑地 成城 3-6

こちらクリスマスツリーのような三角形の樹形が美しい木です。いちばん高い木は名木のヒマラヤスギの中で最も高く27.4mもあり、高い木が並んでいる様子は遠くからも見ることができます。

この場所は市民緑地となっており、土地所有者のご協力のもと一般公開されています。ここにはほかに四季折々の花が楽しめる花壇があります。



昭和61年度選定の樹木

昭和 61 (1986) 年度に選ばれた名木の中で、今回惜しくも選外となってしまった木で、現存するものの一部を紹介します。令和元 (2019) 年までの 33 年間、守り育てて来られた所有者の皆様、愛着を持って観賞してくださった皆様、ありがとうございました。

ウメ

宝寿院光伝寺 喜多見 5-13

幹を横に傾斜させ、枝張りを広げるように仕立てられています。選定時から幹はすでに洞状になった古木でした。幹の空洞化が進み樹勢は衰えてきましたが、残った枝に今も花を咲かせています。



シダレザクラ

宝寿院光伝寺 喜多見 5-13

選定時は、京都丸山公園に倣い笠仕立てを数年ごとに更新し見事な樹形を誇っていました。現在は、幹や根株に腐朽がみられ、樹形が変わってしまいました。しかし、健全に成長している枝には今も花を咲かせています。



ヒヨクヒバ (群)

宝性寺 船橋 4-39

選定時は、山門から本堂まで大樹が並んでいましたが、現在は1本が残るのみとなりました。しだれた珍しい葉は手で触れられる高さにあります。



サンシュユ

浄光寺 世田谷 1-38

中国、朝鮮半島原産で日本には江戸時代に入ったそうです。選定時は6本の株立ちでしたが、腐朽により現在は1本が残るのみとなりました。しかし、ひこばえや胴吹き枝を長く伸ばし葉を茂らせ、一生懸命生きていて生命力が感じられます。



カルミア

個人宅 大蔵 1-9

北米原産で日本には大正時代初期に入ったそうです。三菱の岩崎弥太郎が自社船で個人的に運んだうちの唯一の現存木で、日本で一番古いカルミアと思われます。選定時は、3本の株立ちでしたが、現在は1本が残るのみです。残った枝には美しい花を咲かせています。

